

2021年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2022年3月20日

発行人

日本基督教団 関東教区 埼玉地区委員会

委員長 小林 眞

さいたま市岩槻区本町 4-3-15

http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/

印刷所 (株)シャローム

新年合同礼拝

2022年の埼玉地区新年合同礼拝は、教師委員会主催のもと、1月10日に区ごとに開催され、それぞれの開催風景を報告していただきました。

＋1区 新年合同礼拝の恵み

浦和別所教会 澤田石秀晴

最寄り1区の新年度合同礼拝を、岩槻教会で開催出来ましたことを、主に感謝致します。



説教された川上寧先生

当日は、22教会から47名(教師18名、信徒29名)が出席し礼拝を守りました。当日の説教者として、小林眞先生(岩槻)を予定しておりましたが、体調がすぐれないとのことで、急遽、川上寧先生(前ベルギー日本語教会牧師)に代わって頂き、詩編23編から先生の体験を交えて、主の豊かな導きについて語って頂きました。

また、新成人の祝福については、新

成人の出席者はいなかったものの、お祈りを希望する方々について、赤田直樹先生(聖学院)から祝福の祈りをして頂きました。

今回の新年合同礼拝については、主の守りがあつたことを強く感じています。開催案内を発行する時点(2021年11月)では、コロナウイルス感染が下火となっていました。それでも、何かあつたらと各教会からの出席者数を3名に制限しました。そうするうちに、年末からオミクロン株の感染が一段増加し、新年合同礼拝開催の是非を教師委員で再協議することになりました。委員の結論として、礼拝の開催を執行することとし、祈りつつ当日を迎えました。申し込みのあつた方が全員礼拝に出席し、礼拝を終えた後、晴れやかな顔で挨拶を交わす姿を見て、この礼拝は主に守られ、祝福されていることを強く感じることができました。

2022年は、オミクロン株による感染が急増することから始まりましたが、この新しい年は、コロナウイルスの感染が収まり、いつものように礼拝を守り、伝道活動に力を注げる年にしてくださるようにと、主に祈らずにはおられません。

＋2区

交流を持つことの大切さ

狭山教会 大久保一秋

最寄り2区の新年度合同礼拝は、志木教会を会場にして行われました。併せて、Zoomによるリモート参加もできるようにしました。



オンラインによる聖餐式

今回の特徴としては、聖餐式の恵みに与つたことが挙げられます。オミクロン株の感染急拡大の只中であつて、新年合同礼拝を行い、聖餐式を執り行うことができたことは、ただただ感謝なことでありました。

昨年、皆様へご案内した頃はまだコロナの感染は落ち着いていません。ところが、年が明けてオミクロン株の感染が広がり、そのスピードたるや大変なものでワクチン2回接種も、必ずしも効果がないとも報じられていました。そのため、配餐や献金など奉仕者を予め決めることさえ叶いませんでした。参加されるご予定の先生や信徒の方々が、直前のご判

にね

問「なぜ、勉強する必要はあるの?」に
は、答「他人

にだまされないため」がある。コロナ感染症対応のこともだ。「ワクチンを2回受ければ感染しないはず」が、「接種済み感染者が増えたら重症化しない」にトーンダウン。オミクロン株には3回目が必要と。ゴールポストの移動はルール違反なのに、特例承認された治験中の薬だから、長期にわたるベネフィットやリスクも判明しないからか。

どの国よりも早く4回目のワクチンを打ったイスラエルでは医師が「効果は限定的」と言ったのに、TVでは日本の医師は「3回受ければ、90%の予防効果が見込まれる」と。

世の中にある嘘は3種類。嘘と大嘘と統計だと。感染源は飲食店だと自粛要請を繰り返すが、エビデンスは示さない。PCR検査の精度管理ができない検査所も多々あるようで、今ひとつ信頼性に欠ける。微量のウイルスでもキャッチされれば陽性者で、感染者とは限らないのに、無症状患者と呼ぶ。まだまだ勉強が足りない。

(中村 眞)

断で、会場への参加を見合わせるのも、むしろ、当然のことと思われました。しかし、すべては神様が整えて下さいました。会場を提供して下さいました。基生先生はじめ、志木教会の8名の皆様には、心からの感謝を申し上げます。

会場では司式は澁谷弘祐牧師(毛呂)、奏楽は鷺澤麻里姉(志木)、説教は木ノ内一雄牧師(川越)、『キリストと結ばれる人』コヘレト12章12〜14節、Ⅱコリント5章10〜21節)にご奉仕頂き、感謝致します。

聖餐式は筆者が執り行い、当日になってご奉仕をお願いした皆さまも、快く引き受けて下さいました。一方、例年、式順に入れていた「子どもへの説教」と「新成人祝福祈祷」、「新成人から」は行うことができませんでした。

参加人数は20教会58名(うち会場参加は8教会20名、Zoom参加は12教会38名)でした。

会場のスクリーンに映し出される映像を通して、コロナ禍によってお目にかかれなかった方々のお姿を拝見できたことも、忘れられない思い出になりました。感染防止対策を講じながらの会場参加、配信によるZoom参加、それぞれ良いところ

ろがあります。信仰者どうしが交流(コイノニア)を持つことの大切さを改めて感じた一日でした。

3区

和戸教会 佐藤さゆり

熊谷教会の3階礼拝堂を主会場とし、3区の新年合同礼拝が行われた。



熊谷教会の2階集会室、サテライト会場の久喜復活伝道所、リモートも加わり、子ども7名、大人51名、合計58名(12教会、他地区1教会)が参加した。新型コロナウイルスが急激に拡大する中であつたが、予定通りに開催することができた。

子ども説教を担当した竹内真理伝道師(深谷西島)は、ヨナの物語を絵を見せながらお話しした。物語を先行しながら語る子どももおり、会場は和やかな雰囲気にも包まれた。最後に、

新約聖書の言葉を皆で暗唱した。「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」(1テモテ2章4節)子ども達は、別室に移動し、皆でトランプをして楽しい交わりの時をもった。

説教は、西川晃充牧師(行田)によって「一致を求めて」と題し、Ⅰコリント1章10〜17節を通して語られました。パウロが「一致」についてどのように語っているか、「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい」(Ⅰコリント1章10節)。

「心を一につに」とは、教会に問題が生じた時に、異なる意見がなくなることをパウロは求めているのではない。福音の真理に基づく一致があるならば、様々な問題が生じた時に「各自が自分の心の確信に基づいて決めるべきこと」(ローマ14章5節)であると言う。異なる意見をもつ者たちが、互いにへりくだり、謙遜に主を仰ぎ見る時に、一致を求める者へとキリスト者は変えられていくのである。

サテライト会場での音声が届かえづらかったり、途絶えたりしたところもあり、反省の余地はあるが、色々な方々の奉仕に支えられて、礼拝をささげることができたことは、大きな喜びであつた。

***伝道協力協議会報告

地区書記・熊谷教会

大坪 直史

今年度もコロナ禍のために地区内各委員会・各部の活動の多くが自粛せざるを得ない状況ですが、今回、10月17日(日・午後3時〜5時)上尾合同教会において第7回地区伝道協力協議会を開催致しました。参加者は121名(19教会・伝道所)でした。

昨年初頭から、全国のコロナを2年連続で書面開催とせざるを得ず、地区内諸教会・伝道所の多くも、主日礼拝や祈祷会への感染予防対策を取らざるを得なかつたかと思ひます。

協議会は、この1年半程のコロナ禍を踏まえて、主題を「教会のつとめ〜コロナ禍によつて気づかされたこと」とし、小講演を小林眞地区委員長(岩槻)、発題を末永廣地区会計(小

川)にしていたいただきました。小林先生は、コロナ禍における日本基督教団の対応や海外の教会の対応の事例を紹介され、国家による礼拝休止決定や、それに反発する教会の信仰のあり方など、コロナ禍ならではの困難な問題について話されました。最も印象深かったのは、やはり、礼拝は神の招きによるもので、招集された人々による礼拝が基本であること、オンライン礼拝など様々な工夫も大切であるが、それはあくまでも代替手段に過ぎないこと、それは時に礼拝の姿勢を崩しかねないものであるという事を語られたことでした。

末先生は、地区内諸教会・伝道所の財政状況を踏まえつつ、どの教会・伝道所も困難な中で、それぞれに精一杯献身しておられる様子をお話しくださりました。

質疑応答・協議では、各教会・伝道所の取り組みや現状、また今後についてなど、様々な意見が交わされ、祈りの課題を共有させていただきました。埼玉地区としても、今後とも、諸教会・伝道所の一致と連帯、また福音の前進のため、主にあって祈りつつ可能な限り仕えてまいりたいと存じます。

追悼

森田弘道牧師を偲んで
本庄教会 正田國磨呂



森田弘道先生は、2021年8月28日、84歳の生涯を終えて主の御許に召されました。

1961年、東京神学大学院神学研究所修士課程を修了後、弘前教会担任教師に就任し、1966年、旧西ドイツ

ツ、ボン大学神学部留学し、1970年、愛泉教会主任担任教師に就任し、同時に愛泉幼稚園施設長に就任されました。

1922年にドイツから宣教師として来日されたゲルトルード・エリザベス・キュッククリッヒ女史が岡安寿々姉、岡安正庫兄と共に戦災孤児を保護するため、「愛泉寮」と「愛泉寮教会」を設立されたのが、今日の「愛泉教会」と社会福祉法人「愛の泉」の始まりです。

森田先生は、キュッククリッヒ女史の愛と薫陶を受けて育った藤崎愛香姉と結婚し、「愛泉教会」の牧会と共に、「愛の

泉」の第五代理事長としてキュッククリッヒ元理事長の遺訓を継承し、乳児・児童施設から老人施設まで、地域に根を下ろして、助ける人なき人のために助ける人となる。事業の発展と充実に尽くされました。

森田先生は、私が2012年に腎臓癌の再発と両肺への転移で、余命一年と告げられた翌年に、大宮教会に來られて、「愛の泉」の理事を要請されました。病気の旨を告げましたが、それでも良いと言われました。ところが、その翌年、森田先生に癌が見つかり、手術を受けられました。術後、ビタミン

求める方が起こったことから、売却して教会移転をされ、1987年から現在地の新座に於いて「べウラ教会」として、35年に亘り埼玉県南部の救霊に務められました。

先生は、板橋時代に多くの祝福を与えられ、特に、多くの献身者を養成、輩出されたことは関係者の記憶に残っています。現在、教団常議員を始め、各地の教団教会牧師、福音派教会の伝道者として、主の福音宣教の御業を担う、主の器を育てられました。先生の尊いお働きに感謝します。

追悼

石川喜一牧師を偲んで
深谷西島教会 竹内紹一郎



昨年11月12日、92年余の地上の生涯を終え、主の御許に召された石川喜一先生は、金井為一郎師のお導きで日本聖書神学校で学び卒業され、東京教区の

深谷教会伝道師として伝道者の歩みを始められました。また、同教会の信徒で医師の方の開拓伝道のための祈りと支援とにより、東武練馬近辺での開拓伝道に取り組まれ、教団の開拓伝道援助も受けて、土地と会堂を取得され「板橋北伝道所」を開設されました。その伝道所には献身を志す若者が与えられ、1973年には、二種教会への昇格時に「板橋べウラ教会」と改称されて、伝道されました。

その後、近隣に教会の土地を

C多量点滴治療のために、私の車で横浜のメイクリニックに毎週通いました。途中、癌を患った元教団総幹事の内藤留幸先生もお乗せし、3人で神学伝道論議をしながらの通院でした。

森田先生はお元気になられて、2015年10月24日、「愛の泉」創立70周年記念の務めを果たされました。2018年潮田花枝姉に理事長を委ねて退任し、名誉理事になられました。今は、天にあつて「愛の泉」の益々の発展を祈っておられることでしょう。

先生は東京教区の開拓伝道を振り出しに、関東教区埼玉地区で伝道牧会されましたが、その亡骸は東京教区・西東京教区の共同墓地に納めていただきました。言いが残されました。

ベウラ教会のこれからは、新座の地に建てられた教会として、関東教区や埼玉地区の豊かなお交わりの中で、福音宣教を進めていただきたく願ひ、祈っております。

**オンライン教会音楽講習会

埼玉新生教会 吉田みち子

今回は、「歌えない時の賛美」を主題とした講習会を11月13日に開催しました。前回同様、感染対策のためオンラインのみを用い、講師は、教団の讚美歌委員でもある浦上充牧師(東中野)をお迎えし、参加者は、17人、12教会(地区内11教会、地区外1教会)でした。

講演では現在、教会が抱えている新型コロナウイルスによる影響や、以前からある地域差、信徒の高齢化などの問題が示され、対面礼拝を軸に、それぞれの教会に合わせ、分散礼拝やオンラインを組み合わせる事が提案されました。

また、感染対策で、歌うことを制限していた賛美や、研鑽の機会が減少した奏楽者への配慮が語られました。

質疑応答では、オンライン礼拝は対面礼拝の補助として有効だが、その環境のない方々への配慮なども必要ではないか、という学びを深めることができました。(教会音楽委員)

特集

地区内の教会・伝道所から「今・そして課題と展望」について特集のページを設け寄稿していただいています。これは、地区の「主にある交わりを深めよう」の主題のもとに企画し、互いに憶えあい祈り支えあう一助になることを願っています。

十一 一緒にいるという神秘

東所沢教会 指方 周平

緊急事態宣言が発出され、礼拝堂に集まれなくなつた一昨年4月、どんな形であれ主日礼



拝を途切れさせてはならないと、無我夢中で礼拝の配信を開始しました。しかし、誰もいない礼拝堂で、私の中に募つてきたのは、皆で一堂に集まらない寂しさでした。

次第に、その寂しさを背景に浮き彫りにされてきたのは、性別も世代も、テンポも関心も、聖書の読み方や信仰理解さえ違う、バラバラの一人ひとりが、主なる神に集められ、主イエスに結ばれて共にいる事実、人間の思いや努力では実現できないはずの一致が、聖霊によつて実現している神秘でした。そして、教会においては、一緒にいるということ自体が何かをするための手段や条件ではなく、すでにキリストの体である教会のしるしだったのでと再発見したのでした。

当教会では、この感染禍の中で、6名の兄弟が天に召されましたが、葬儀は家族葬にならざるを得ず、参列できなかった教員は区切りのつかない気持ちを抱え続けています。コロナ禍が落ち着いたあかつきには、一堂に集まって、召された兄弟の思い出を分かち合い、復活と再会の希望によつて励まし合いたいと思いを巡らせています。

十二 困難の中でこそ 信仰を固く持ちつつ

上尾使徒教会 武井アイ子

コロナ禍にあつて、教会は2019年度以前には普通に出ていた教会活動が出来ない状況が2年間続いています。



当教会は2部礼拝制、ユニークな礼拝、讃美歌は奏楽のみ、祈祷会他も制限された形です。教会内で感染を起さないうちに、種々の防疫に努めてきたのが現状です。

今の課題は、高齢者が多くなるなかで、高齢者が礼拝に参加できるようにする事と、もう一つは、コロナ後を考えています。コロナ禍で信仰が問われました。忍耐強く待ち望む信仰の

大切さですが、今ここで私たちが何もしない状態に慣れ、傷が回復されず、力を落としたままウィルス明けを迎えたら、教会は以前のように、教勢的にも回復されるのか、という課題があります。

またWEBコロナの闘いが世界に続くとも言われます。コロナで信仰もまた迫害に遭っている様です。難しい対応の中で私達が力を失わず、信仰を固く持つ事が何よりも教会の展望を決めて行くと思われまします。教会の各人が、しっかりと信仰を神と教会の業に表わしてゆく事が何よりの力となると思わずにはいられません。たとえ何であろうとも、神は共にいます神です。

状況の許す限り、共に祈り合い、それが実つてゆく展望を持ちたいと思います。

**牧師夫人と 女性教職の集い

白岡伝道所 佐々木佐余子

2021年11月23日(火・祝日) 10時から12時に開催しました。20年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため見送られており

ましたが、少しづつ感染者も減りましたので、2年ぶりに開催できました。

礼拝では越谷教会の棚橋千恵美牧師により、ヨハネの手紙一から「喜びが満ちあふれる」と題して説教をいただきました。その後、毛呂教会の澁谷弘祐牧師による立証を伺い、休憩をはさんで白岡伝道所の佐々木佐余子牧師による「聖餐式の一考察 アメリカ17〜18世紀における聖餐式の意味とは」と題して講演がありました。

今回は、スケジュール的にタイトでしたが、22名の方々から近況報告が寄せられ、久美愛教会の鈴木佳子牧師の導きにより、感謝の祈祷と病にある教友を覚えて、数名の方々の祈りが捧げられました。出席者は大人18名、子供2名(15教会・伝道所)、席上献金は2万円奉げられたと岩槻教会の小林英子姉より報告がありました。献金は埼玉地区婦人部の活動のために送金されました。今回、楽しみの食事会・愛餐はありませんでした。天候に恵まれ、地区にある同労の者たちが久々の再会に喜び、散会となりました。



行田教会 献金堂建築 報告

行田教会 西川 晃充

行田教会は、「のぼうの城」で有名な忍城近くの、戦前からある足袋工場を改築した会堂で長年礼拝を守ってまいりました。しかし、会堂の老朽化が進み、木造建築特有のシロアリ被害も発生しておりました。

そのような中、埼玉県からホザナ幼稚園が老朽化した会堂を使用することの問題性を指摘され、それを受けて、今後どうすべきかを教会で話し合うことになりました。「老朽化したトイレの改修工事は早急に対処すべき」との考えは、教会の一致した考えでしたが、部

分的な改修を繰り返せば、会堂全体をやり終える頃には、会堂建築資金が底をつくことは明らかでしたし、改修や改築を繰り返した建物は構造的に脆く、いずれ大規模な工事が必要となることも予想できました。

こうした中、2019年度の定期総会で「いつそ会堂建築資金で新会堂を建ててはどうか」との意見が出され、反対者がいなかったため、全会一致で新会堂の建築を決議致しました。具体的な会堂建築計画を立て始めたのが2019年4月、完成したのが2021年3月でしたので、会堂建築が総会で決議されてからわずか2年という短い期間での新会堂の完成となりました。具体的な建築過程は次のようなものでした。

まず、建築工事事社2社に設計と見積りを依頼し、何度か教会で話し合いをし、その結果、最終的に小川工業に建築を依頼することが決まりました。ただし、小川工業は、地元最大手の建築会社ですが、教会堂の建築は初めてであったため、牧師と何度も何度も打合せをしながら、建築に着手してゆくことになりました。

礼拝堂の広さや天井の高さはどうするのか、十字架の大き

さや位置はどうすべきか、礼拝堂入口の扉の大きさ、壁紙の色、講壇の高さ等々、そうした諸々のことを他の教会の会堂画像を参考にしたり、見学に行ったりしながら、小川工業と牧師が何度も打合せをし、その話し合った内容を毎日曜日の礼拝後に、教員と何度も話し合う、その繰り返しを2年間続けました。

大きな問題としては、地盤の問題でした。忍城周辺は、利根川と荒川に挟まれた扇状地に点在する広大な沼地と、自然堤防を生かした構造となっており、地盤が弱く、解体後の土地に会堂をそのまま建てるのが難しいことは火を見るよりも明らかでした。しかし、地元で長年工事を行なってきた小川工業は、スウェーデン式サウンディング試験方法で地盤調査を行ない、69本の杭を打つことで、建築に耐えうる地盤へと改良していききました。

こうした地盤の問題に加え、限られた会堂建築資金の問題もありました。行田教会は、2019年4月に新しい牧師を招聘し、その関係で老朽化が進んでいた牧師館のリフォームで建築資金の6分の1ほどをすでに使っていたからです。つ

まり、建築資金はすでに4千万円を大きく下回っていたのです。

しかし、その本質において会堂建築はこの世の営みではありません。不足した分を内外に依頼して献金を募るのではなく、ただ神にのみより頼んで祈りを合わせ、神が与えたもう、身の丈にあった会堂を感謝して受ける、との考えで会堂建築に臨んでいきました。その際、教会員への献金のお願ひも一切しなかつたにもかかわらず、多くの献金が自発的にささげられ、会堂建築に必要な資金が過不足なく与えられました。ただし、礼拝堂の長椅子などの備品関係を揃えるまでの資金はありませんでしたので、保育のために会堂の一部を使用することになる幼稚園から、長椅子代を一時的に借りることが決まり、献金式前に長椅子も礼拝堂に入り、喜びをもって毎日曜の主日礼拝を守っております。

行田教会の新会堂は、多くの方々の祈りによって建てられたものだと考えております。私どもの教会を覚えてお祈りくださいましたことを、心より感謝しております。

****信教の自由と平和を守る
2・11集会**

所沢みくに教会 加藤 久幸

2月11日(金・祝日)午前10時、大宮教会において、2・11集会を開催した。

講師の星出卓也先生(日本長老教会西武柳沢キリスト教会牧師、日本キリスト教協議会(NCC)靖国神社問題委員会委員長)から、「大バビロンと戦争中毒―やめられない軍備化と天皇制」という講演をうかがった。コロナ感染拡大により格差や分断等が進行する状況にあつて、その深層にある「やめられない軍備化」を明らかにする、傾聴すべきメッセージであった。同時に、星出先生の講演はヨハネ黙示録をもとに、いつの時代においても、信仰者が信頼をおくべき、福音の解き明かしをしてくださった内容であった。

講演要旨は、3月末発行の「埼玉の夜明け」No.160に掲載予定。また、埼玉地区のホームページに、講演動画と講演原稿(全文)を掲載予定。ぜひ、視聴もしくは内容を味わっていただければと願っている。参加者25名(含講師)

地区委員会報告

●2021年度第4回委員会

日時 9月7日(火)

会場 大宮教会、出席10人

○主な報告 以下、承認。

一、地区内の教会・教師の報告

○献堂式 行田教会

○就任式執行

・春日部教会 平澤 巧(補)

○逝去

・森田弘道(担・正) 愛泉教会

二、会計報告

○主な協議事項 以下、可決。

一、地区委員会主催集会等に関する件

①伝道協力協議会に関する件

可能な限り感染予防対策を取り、予定通り開催する。

②新年合同礼拝に関する件

③地区講壇交換に関する件

開催の是非については11月の地区委員会で判断する。

●2021年度第5回委員会

日時 10月21日(火)

会場 大宮教会、出席9人

○主な協議事項 以下、可決。

一、社会委員会の「埼玉の夜明け」第159号の内容と発行に関する件

熊谷教会から当地区委員会へ「地区社会委員会の発行物に関する要望」が届いた。小林地区委員長作成の「要望

書」一案を、一部文言を追記した上で、地区委員会から地区社会委員会へ送付することとした。

●2021年度第6回委員会

日時 11月5日(金)

会場 大宮教会、出席10人

○主な報告 以下、承認。

一、地区内の教会・教師の報告

○就任

東京聖書学校吉川教会 原田彰久(教・正)

○就任式執行

和戸教会(主) 佐藤 進(正) (担) 佐藤さゆり(正)

な講壇交換に委ねる。

③地区総合協議会に関する件

日時 2022年2月15日(火) 19時より

会場 大宮教会

④地区総会開催に関する件

日時 2022年3月21日(月) 9時30分~16時

会場 埼玉和光教会

基本的には開催の方向で準備していく。説教者の候補者を挙げた。

二、クリスマス・プレゼントに関する件

二、クリスマス・プレゼントに隠退教師15名(7万5千円)へ差し上げること承認。

○就任

東京聖書学校吉川教会 原田彰久(神・正)

○就任式執行

和戸教会(主) 佐藤 進(正)

(担) 佐藤さゆり(正)

・越谷教会(担) 清水義尋(補)

○問安報告・2教会

○名称変更、住所変更

菖蒲教会→白岡菖蒲教会

新任所：〒349-0217 白岡市小久喜815番地5

二、会計報告

○主な協議事項 以下、可決。

一、地区委員会主催集会等に関する件

①新年合同礼拝に関する件

基本的には開催の方向で準備していただく。

②地区講壇交換に関する件

各・教会・伝道所の自主的

な講壇交換に委ねる。

計より補充する。

●2021年度第7回委員会

日時 1月7日(金)

会場 大宮教会、出席10人

○主な報告 以下、承認。

一、地区内の教会・教師の報告

○逝去

石川喜一(正) ベウラ教会

不足分について、地区伝道会

計より補充する。

●2021年度第7回委員会

日時 1月7日(金)

会場 大宮教会、出席10人

○主な報告 以下、承認。

一、地区内の教会・教師の報告

○逝去

石川喜一(正) ベウラ教会

○問安報告 一教会

二、書記・補助書記報告

『埼玉の夜明け』回収状況経過報告。本日まで42教会・伝道所から回収協力あり。

三、会計報告

○主な協議事項 以下、可決。

一、地区総会に関する件

コロナ禍感染者数急増状況を踏まえ、書面開催とし、郵送選挙を行う。諸資料の作成や郵送等は、三役一任とする。

二、教団伝道資金本年度運用及び次年度申請に関する件

今年度運用報告と次年度申請予定について説明。詳細は三役一任。

三、諸申請に関する件

・教区「教師謝儀互助」

加須教会、秩父教会

・教団年金掛金互助

秩父教会、東松山教会、毛呂教会

四、2022年度教区総会に向

け設営委員会を設置する件

総会は5月24日、25日に大宮市民会館が会場。2021年度及び2022年度の地区委員で設営委員会を構成する。

主の年2022年を迎え、教師委員会主催の最寄り各区において新年合同礼拝を開催し、コロナ禍での工夫された礼拝の報告をいただきました。

昨年8月森田弘道先生(愛泉)、続いて1月に石川喜一先生(ベウラ)が、地上での伝道者としてのご生涯を終え、天に召されました。ご親交の深かった先生方に追悼文をお寄せいただきました。

2015年から地区主題「主にある交わりを深めよう」の一助になることを願い「特集」のページを設け、毎号平均2教会・伝道所に寄稿を依頼し、今号で41教会をご紹介できました。

コロナ禍での活動の制約の中で、地区の活動がなされ、その記録として地区通信が用いられることを願い、また原稿依頼へのご協力に感謝しつつ、Vol.50-2をお届けします。

(茨木公子)

編集後記

婦人部だより

No.40

婦人部の活動

委員長 鴻野 清美

一昨年、2月頃より新型コロナウイルスが感染拡大しています。次々と型を変え、第六波の今はオミクロン。症状は軽いようですが、亡くなる方も出ています。教会生活においても聖日礼拝が守れずリモートになった所も多いようです。教会学校を中止した教会もあると聞きました。

ワクチン接種も進み、3回目も始まりました。うがい、手洗い、マスクは子供たちにも守られています。収束の兆しは見えませんが。

婦人部の活動に一度も参加した事のない私が委員長となり、1年になろうとしています。幸い前委員長の石井さんが教区担当で、前副委員長の田島さんもそのまま残って頂きスタートを切る事が出来ました。2021年度の活動計画はコロナ禍で殆ど中止でした。

婦人部総会は昨年引き続き書面議決としました。

6月に栃木県青年会館で行う予定だった関東教区教会婦人会連合の総会も中止。書面議決総会となりました。

アジア学院ホームステイ・プログラムは学院と協議のうえ中止。

婦人部の一大行事である婦人部全体研修会も中止。

毎年10月から11月に開催の「もより婦人会」は7ブロック中、5ブロックが対面、リモート、書面開催で行う事が出来ました。

ACWCJアジア教会婦人会議日本委員会)の一日研修会も中止。

2022年3月の「世界祈祷日」については、1区、2区、3区共に事務担当教会が準備を進めています。イングランド、ウェールズ、北アイルランドの婦人たちを覚えて式文に基づいて礼拝と献金を、捧げる形式になります。

★2021年度クリスマス献金報告

- 朝霞教会・加須教会・白岡菖蒲教会・秩父教会・深谷西島教会・埼玉中国語伝道所・鳩山伝道所・桶川伝道所・久喜復活伝道所(9教会・伝道所)・虹の家信愛荘・アジア学院・久美愛園・神愛ホーム・光の子どもの家・ホザナ園・三愛学園(7施設・学院)
- ★2022年度活動計画
- ◎毎月(8月・12月は休み)の委員会
- ◎地区婦人部総会・書面議決による総会
- ◎関東教区教会婦人会連合第48回総会(埼玉地区担当)6月3日(金)(日帰り)会場 大宮教会(予定)
- ◎アジア学院ホームステイ・プログラム
- ◎地区全体研修会
- ◎7月 大宮教会(予定)
- ◎アジア教会婦人会議日本委員会一日研修会(超教派)日程及び会場は未定
- ◎もより婦人研修会
- ◎7ブロックで検討
- ◎クリスマス献金先の検討
- ◎「婦人部だより」編集
- ◎NCC主催「世界祈祷日」(超教派)に協力
- 2023年3月第1金曜日

各区ごとに検討

ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、主の愛を信じ一日も早いコロナの収束を心から願って、祈り続けていきたいと思えます。

数えてみよ主の恵み

(聖歌604より)

今、不安な毎日が続いています。色々な制限の中、いつまでもこの状況が続くのか…。そんな時、心にこの歌が浮かんできました。そして「数えてみよう」と思いました。

この世に生まれてきて、イエス様を信じていることができ、毎週、主日礼拝に出席させていただいています。地区の役員を、とお話しがあった時も、始めは私にできるかな不安でしたが、新しく役員の方々と知り合うことができ、主にある交わりを通して親しく活動する事ができました。

コロナ禍で制限の多い1年でしたが、もより婦人会を各ブロックごとに工夫して開くことができ、クリスマス献金を施設等に献金することができました。



神様の御手にゆだねて

会計 渡辺 敦子

♪望みも消え行くまでに
世の嵐に悩む時
数えよ主の恵み
汝が心は安きをえん
数えよ主の恵み
数えよ主の恵み
数えよ主の恵み
数えよ主の恵み

これからどのようにしていくのか、私達には計り知ることが出来ません。でも神様はいつも私達に恵みをお与え下さり、最善の道を備えて下さいます。

神様の御手にゆだね、感謝しつつ歩んでゆ行きたいと思えます。

もより婦人会研修会

例年、10月～11月にかけて開催される「もより婦人研修会」は、今年度もコロナウイルス感染拡大の状況にあり、開催については、当番教会がブロック内の教会の皆様と相談して、決めて頂きました。

第2ブロックと第7ブロックが中止となりました。
以下「もより婦人研修会」の報告を記載いたします。

◆第1ブロック

浦和別所教会担当

もより婦人研修会の恵み

栗原 初音

ハレルヤ！コロナ禍を考慮し、対面集会が適えられない中、小さな集りでしたが、大きな恵みを分ち合いました。礼拝は、当教会の澤田石牧師を通して、使徒言行録1章8節よりメッセージを取り継いで戴きました。講演を「我らの国籍は天にあり」と題し、成増キリスト教会隠退教師、有馬味付子先生にいただきました。47年

間、互る式夫牧師との牧会「わたしは在る」の神を全面的に信じ、人と比べない。めんどうと思つたらやる。神の前には皆同じ、必要は与えられる。式夫牧師より教えられた事を覚えて、永遠、復活の命を信じ、豊かに生かされている味付子先生にシャローム。

◆第3ブロック

東京聖書学校吉川教会担当

研修会報告

大熊 眞弓

10月18日(月) インターネット(Zoomアプリ)を活用して、39名参加(10教会・伝道所内の8教会・伝道所)。「近隣教会の歴史と伝統」と題して、当教会の原田彰久牧師の講演。参加者のお声とお顔を共有しました。

「近隣教会の伝統に学び、先達も労苦したことに励まされ、未来へバトンをつなげましょう。不安があつても、雄々しく挑戦を続けていきましょう。それが日本基督教団の教会を創り上げるために大切である」と語られました。

◆第4ブロック

桶川伝道所担当

ウイズ・コロナ

高橋 康子

もより婦人会第4ブロックは2020年の開催を目指して、講師も決め、日程もおさえていたのに、中止を余儀なくされた。

2021年度も中止するのはのびなく、今回講師の東海林昭雄先生に礼拝と研修会用の原稿を書いて頂き、各教会で集まれる婦人会員が集い開催した。礼拝献金をお捧げし、聖研を自由に行い、感想文もそれぞれに共有した。コロナに負けずしなやかに、抵抗してゆく生き方を教えられ感謝！

◆第5ブロック

越生教会担当

喜んで旅を続ける

渡辺 文字

- * 講師 佐藤彰子伝道師
- * 日時 11月24日
- * 使徒言行録8章26～40節
- * 「聖霊に導かれて」

第5ブロック当番教会とし

昨年引き続き、コロナ禍で集まることは困難と判断しました。礼拝プログラムとメッセージを各教会に配布し、書面での開催と致しました。

フィリポに主の霊が一つ一つ命じてくださったように、わたしたちにも、道が備えられました。今年は、ご一緒に集うことはできませんでしたが、来年はお会いできることを信じ、その日まで祈りあつていきたいです。出席者7名でした。

◆第6ブロック

三芳・川越教会担当

聖霊に導かれ、神の召しに応える

―使徒言行録を学びつつ―

佐伯美知子

新型コロナウイルス感染症の拡大のため、昨年引き続きこれまでと同じ形での研修の開催は難しいと判断しました。当番教会に集まらず、川越教会の木ノ内一雄牧師に地区婦人部の今年度の主題に沿った講演の原稿を書いていただきました。

その原稿を各教会に配布し、み言葉の説き明かしを味わっていただきました。

集会が開ければ祈りと賛美をもって読み合わせ、集会できない時は各自で読んで頂きました。

	2021年度	2022年度
第1ブロック	浦和別所教会	西川口教会
第2ブロック	中止	浦和東教会
第3ブロック	東京聖書学校吉川教会	久喜復活伝道所
第4ブロック	桶川伝道所	北本教会
第5ブロック	越生教会	毛呂教会
第6ブロック	三芳・川越教会	所沢みくに教会
第7ブロック	中止	深谷西島教会

